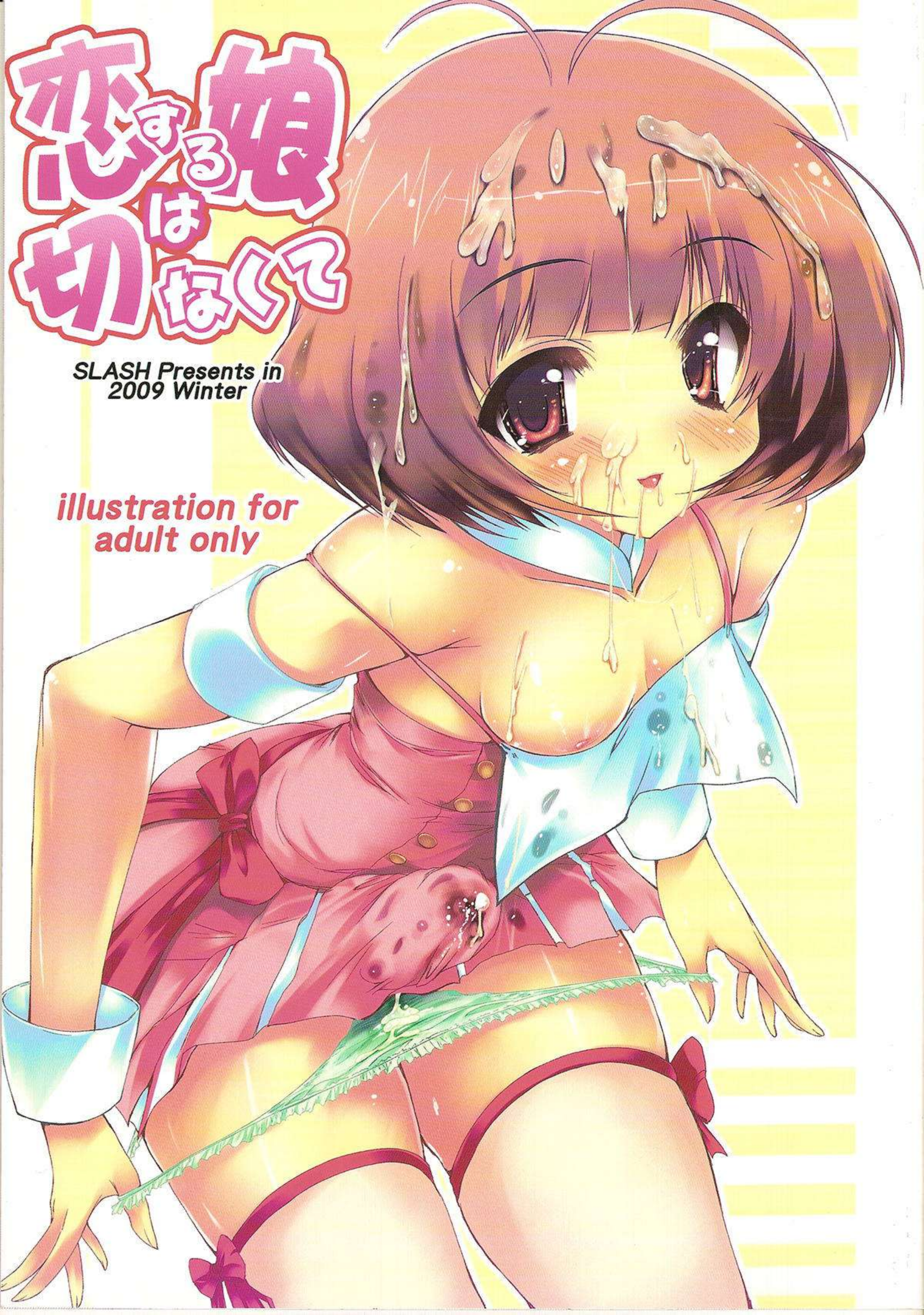


恋する娘 心は切なくて

SLASH Presents in
2009 Winter

illustration for
adult only



ぼくとプロデューサーが出会ったのは美希さんがオーディションに参加していたときに挨拶したのがきっかけだった…

あの如月千早さんをプロデューサーして今は美希さんのプロデューサーをしているって聞いた。

すごい人なんだと思ってたけど話せば話すほど優しくて包容力がある人だと思いはじめて気がつけば自分の活動方針を相談する仲にまで…

思い切って自分の秘密を打ち明けたけど嫌な顔一つせずに全てを受け入れてくれた。

その時からだったかな…
同じ男の人なのに
プロデューサーさんを好きになりはじめたのは。
大事なオーディションで失敗をしたときも優しく励ましてくれて…その瞬間気づいたらプロデューサーさんにキスを…

そこから始まった、ぼくとプロデューサーさんの秘密の恋路…



着替え
なかつた
のか？

「この方がプロ
デューサーさんも
かわいいし…」

それじゃー



ぼくの匂いだって
プロデューサーさんの
独りよめ…

なごいよち

い



まじっだな…
この完全
女性になりきってる。

仕事、立ち振る舞い…
声色…雰囲気…
どわを思っても少女そのものだ…

そっだな…

「これ猫耳って可愛いわね」
うんがうん



たじぶり可愛がって
やらなごいな…

んっ…♡

さす

プロデューサーのキス
優しくて大好き…
ぼくを好きでいて
くれるのが
すべわかめるもの…



あ…

おっ



甘えたい…
心の底からプロデューサーさん
に甘えたい…♡

んふ…♡

はっ

これが女の人にとこの
「じゃあわせの」…
なのかな…





はむ♡

んは♡

ん♡

涼…流石にまだ
キスには慣れて
ないんだな…
こんなに震えて…

ちよつと悪戯
して緊張を
ほぐして
やるっか…

涼—

—?

こっ、こんなと
はわかんない…

ぷ、プロ
テューサあ…



舌で何か入れて
きた…

落ち着け
つて…



こっいつのも
大人のキスの
やり方だ

覚えておいて
損はないぞ…



ふ、ふふ♡

あ!!

やた!!

これじゃ丸見
えに…!

ふふ…だから
いいんだろ?

で…
でも…!

びん

いただき
ます...

そう...
優しくな...
うめうめ!

歯を立てずに
包むように
くわえるんだ

すごい...大人の
おちゃんぽつて
こんなに...おつきく
なるんだ...

それに...
同じ男の人の
おちゃんぽくわえて
るだけなの...
頭の奥がじんぱぬ...

ひゃ...

ん??

んぱんぱん

んぱんぱん

んぱんぱん

んぱんぱん

んぱんぱん

うん...
凄く上手だ...

胸の奥が
じんぱぬ...

おちゃんぽん
あげた...

ん...

ブルッ

うめうめ...

ふふっ...可愛い涼の立派な
ちゃんぽだからな。
どうしても悪戯したく
なっちゃうんだよね

プロネクターさんの
手の感触...
暖かくて...やわらか...

今日は腰が立たなくな
るまで気持ちよく
してやるからな

うめうめ...

んぱんぱん

んぱんぱん



プロデューサーあ…！
な…何を…

ぬりぬり



ガクガク

ム…ム…ム…

ガク

ブルッ

ブル

心配するな、
ただの
ローションか

まだ緊張
してるな…

それっ

ぎゅ

なんか…
ヌルヌルします…

涼が気持ち
よくなぬぬの
液体さ

おっ！



気持ちいいと
どうかな...

ふふ...ちゃんと
綺麗にしてきたな



お尻の穴を
いじられて
るのよ...



すごい締め付け
じゃないか

だっ...え...



腸液とローション
が馴染んで
指がわり最高だよ

プロテューサの指を
汚したくないか...

あひる

うわ!!

涼!





安心していいぞ
さっき塗ったローション
の媚薬効果が出てきた
だけだから

お尻から入れると
即効性になるんだ

やだ...
これえ...

プロデビューさあ...
助けてえ...!

お尻

怖い...

お尻が...
めがめ...

指が止まらない...
止まらないよ...

うずく...
ムスムスする...

くち...

キ

キ

くたじやう...
プロテューサーのを...

くたじやう...

何が欲しいんだい?

僕のおっぴん
好きなんだから
くたじやう

プロテューサーの...
肉厚極太チンポお...
僕のおっぴん





なにかな...

ああ、涼
「わてせし」
気持ちよへへ...



こへ、何なん
ぞまかり?

こけはオナホール
と言ったんだな
女性のオナホールの中を
再現したオナホの
オモちゃさ



いーい

いーい

いーい



いーい

いーい



縞パンはいて
こんなにチンポ
ビクつかせて

いーい
いーい
いーい

スケベな
涼だな

ふふ...
「アム」が思たひひひ
思っただひひひ

僕が大好きだっって...
「アム」が思たひひひ



いーい

いーい



すごく幸せ♡
この瞬間が永遠に
甘んじたい♡

僕が自分でも
愛しく愛り始めて
愛してくれよう♡

そして頭の中が
くすくすたくなる
この感じ♡

んっ♡
みつけた♡

大好き♡
甘んじたい♡

はっ♡

ブル

すっかり
とけ知ってたね

もう♡
入り直し
ますよ。

ああ

気持ちはよんこ
あけた♡

ブル ぎゅっ♡

アホ



ブル

だしのせい
だと...

んっ♡

思ってる♡
あはっ♡

ぬふ

んっ♡

んっ♡



ちよつとしたゲームを
しようか、涼

秋月 涼

ゲームですか？

ゲームの前で
YONAKI



口の中の精液を
飲み込まずに
溜めておくんだ



ゲームの前で
しばらくたったら



大好きなローション
さんにお願
いしたい
ハダサ
くせになる遊び...

何かオチこ
えがするけど

ローション...

コンサート開始だ！

たまには
いいよね

一秒チャージ
5時間キヤ



それだけですかあ？
それだけ！

なあ、
イクよー

ここからは夏コミにて
小部数で頒布した
コピー本の涼ちゃんを
載せてます



「綺麗なお尻だね、涼……」

「んっ……そんないやらしく撫で回せなごいで
くださいよお……」

「目の前に涼がいたら誰だって
ごうしたくなるさ。それに……」

「君だって期待してたんだろ？」

「僕に言わせる気ですか……///」

「ああ、涼の口から聞きたい」

優しくお尻を撫で回しながら
俺たちは他愛のない雑談を続けていた。

「さあいれるぞ……ゆっくり
お尻を出すんだ……」

「は……い……」

『やっぴと……憧れの765
プロの……口の……
をずっと夢みてた……』

「んあぁっ……」

「す……い……お……い……」

「俺のを奥に引き込み……」

「グイグイ締め付けてくる……」



「んあーおしりっおしりがっ！
んふっ、すごく…気持ちいい…
ですうっ！おちんちんも
ぬるぬるでえええっ」
「涼…うう言っつてらん…」
「ふえ…？そ、そんなっ
恥ずかしいですよー！」

○○さあんーぼくの…け…
ケツマンコっーもっとグリーグリーユ
えぐってくださいいいい！
おにやほだけ…ひゃ…やらのお！
えうりまふって…○○しゃんろお…
もろにしへえくらしいい！

「はあ……はあ、○○さん
ぼく……すごく幸せです……
プロデューサーして……
もらえなくても……
こうしてたまに会える
だけで……」

「泣いてるのか……？」

「すみません……今だけ……ぎゅって
してもらえますか……？」

「……わかった……おいで……」

「温かい……女の人の幸せ、少し分かった気がします」



恋する
心は
切なく
娘は

SLASH Presents in
2009 Winter